

昭和62年
9月15日
発行
第118号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
(日赤新労)
東京都港区浜松町2-2-14
K1ビル802
TEL (03) 433-3028
発行責任者
鹿島 順

日赤新労

62年度第2回 中央委員会及び幹部研修会を開催

62年度ベースアップ決定

部会で活発な意見交換



昭和62年度第2回中央委員会 (62年8月29~30日・東京)

八月二十九日、三十日の両日、昭和六十二年第二回中央委員会及び幹部研修会が東京都「恵比寿会館」において開催された。三十日を超える暑さにもかかわらず中央委員、単組代表、オブザーバー、本部役員等多数の出席の下で盛大に開催された。また二十九日の幹部研修会は、職能給についての講演が行われた。二十九日午後一時より二時半まで部会が開かれ種々の問題について討議された。また午後三時より幹部研修会として、聖路加国際病院より石山稔氏を招き「病院

中央委員会は、資格審査、成人部、一般経過報告、部会報告、立確認の後、議長に西村和典氏、副議長に佐賀克己氏(徳島血せ)、書記に神谷悦司氏(名二日赤)を選出した。議事は、本部担当役員より各部報告(組織・救急・調査・婦)一、昭和六十二年ベースアップ

し、今会議の提案となった。この提案について審議の結果、賛成多数で決定され、昭和六十二年ベースアップは早期決着の運びとなった。また、この決定により小規模の施設は九月分より新給与で支給されることと思われる。二、昭和六十二年年末手当について本年度の年末手当について本部より提案があり、それに対し

血液センター部会の報告

血液センター部会は新潟、茨城、千葉、愛知、鳥取、徳島の六センターで休日採血問題と天降り人事について話し合われた。一、休日採血についてこの問題に関して本社は、従来より地域の需要に見合った採血をすべきで、特に必要がなければむやみに行うべきではないと言明してきたが、最近になり「分画製剤用の原料血漿が大

聖路加病院から講師招いて

賃金問題を中心に 幹部研修会で学ぶ

二十九日の十五時より十七時三十分にかけて、幹部研修会が開催された。今回は講師として聖路加国際病院総務課作業計画室長・石山稔氏を迎え、「病院賃金の動向と、これからの課題」と題して、人事労務管理の諸問題と賃金・国家公務員給与と職能給・病院賃金制度・人事考課制度・職能資格制度等の講演が行われた。これらの内容は新給与体系の確立のためのよきアドバイス

担当している職務を公正に反映させるにはどうすればよいかという課題をかかえていた。このような状況の中で石山稔氏は田(日本賃金研究センター)先生の賃金研修会に参加し、病院における賃金体系と本格的にりくむことになった。なぜ公務員給与準拠でなければいけないのか、という質問に答えるのは難しい。しかし逆に、民間病院がなぜ公務員給与に準ずるのかという単純な疑問

に對しては、どう答えるのか。ある研修会で職能給について講演した時、日本赤十字社の幹部より、病院というところは公務員給与体系でなければだめだと言われ壇上では、たじろいだこともあったとのこと。しかし公務員給与体系を否定していかしきりさせる。仕事を基準にして、各人の能力を的確にとらえる。これらのことを土台にして、体系的、組織的に能力の評価および開発を図らなければならぬ。最終的には賃金の決定基準を明らかにし、個別賃金がよりよい生活水準に対して公正を維持し、これを通じて労使双方の要求を満たしていく賃金を作り上げるということである。



幹部研修会で講演する石山稔氏

病院部会の報告

十二単組出席のもとに次の四項目について話し合った。一、組織の充実・強化各単組とも各種レクをおしりて組合強化をはかっている。また少数ではあるが、新入職員に對して、組合教育を行っている単組もある。二、四週五休について各単組での実施状況報告のあと、各々の施設において、感染の危険性が高い人に対し、ワクチン接種を行うよう、本社へ要求することを定めた。

初心者研修会終る

62年6月13日〜15日 修善寺・サイクルロッジで

* 参加者の感想 *

(日) 本赤十字社は、歴史が古いだけにその機構は複雑である。私は血液センターに勤めているが、血液センターというものは日赤のごとくに位置しているがさあからなかつたが、この研修で私たちが血液センターの位置や、日頃何げなく耳にしている本社など、漠然としたものではあるが、つなげてきたように思う。また本論である組合についても、その歴史、経過など活動の様子を知ることができ、組合というものは、こんなことをしているんだなあ、おぼろげながら理解できたように思う。

普段の生活でもそうだが、行動をするためには、まず知識が必要だと思ふ。何も知らないで

(天) 城連山を遙かに見渡す静かな修善寺(サイクルロッジ)での三日間の研修会。執行部の皆様には、大変お世話になり厚くお礼申し上げます。組合、協約、綱領、すべて新しい勉強で新鮮なものでした。団結、労働条件の維持改善、自主性、民主的な運営、そしていろいろな活動、独立、頭

この研修会は、本当に私の知りたいと思う気持ちを刺激してくれました。機会があったらもうとっと勉強して、それを役立てたいと思つてます。ただ現在の仕事は医療なので社会性があると思つてます。ただ頑張るだけではだめだと思つてます。考えながら組合活動を進めたいです。執行部の方々、どうもありがとうございました。

(今) 回、日赤新券初心者研修会に参加させてもらいました。私に働く職場のこと、私も考えなくては行けないと思つてます。プツプツ文句をいっているだけでは、何の解決にもならないのですから。本堂にどうしたのか、何が問題なのか、関心をもつていこうと思つてます。研修にあたって、サイクリングやレクリエーションなど、細かい配慮をいただきありがとうございます。

維持している。それは、大変な仕事であり、明日への向上のステップである。それを心の立公園の中にある名勝白石島海

中には見出した今、すべての語句が新鮮に聞こえました。自主的、民主的な運営、全て大切なことばかりです。皆様どうもありがとうございました。

当分組では、恒例の海水浴を今年も二班に分け、瀬戸内海国立公園の中にある名勝白石島海



組合主催の海水浴 岡山日赤で二班に別れて

水浴場で行ないました。参加者は例年並みに夏休み突入直後の一班では大人十九名、子ども十名、八月初めの二班では大人

二日目のスイカ割りでは子ども達の歓声が絶えることなく、また大人達もズッコケの連続で大いに笑い、充分に親睦を深めました。

八戸・盛岡で60名が参加

八戸、盛岡合せて六十名の人気にも思われ、最近にもなく盛り上がりました。キャンプファイヤーを囲みながら花火をし、ビールを飲みながら組合のこと世間話と話を花を咲かせました。

翌日は海水浴場までたった三十メートルしか離れておらず、早朝から海水浴をしている者もいるかと思えば、一方では昨夜の酒が体からぬけきれずに、深い夢の中に陥っている者もあり、各自にとってほんとうに楽しい一時を過ごせました。



東京タワーと夜景

62年度全国婦人部代表者会議開催

日時 昭和62年11月8日(日)〜昭和62年11月10日(火)
場所 東京都港区芝公園2-5-20 東京郵便貯金会館



夕食後のレクリエーション(初心者研修会)

明けぬ。梅雨が明けぬ。八月七日、さんさ祭りを終えていつもの静けさを取り戻した盛岡の空には、この夕も星はなかつた。が、納涼大会の開催される神社の境内に集まったのは例年より多い八十余名。子どもも合わせると百名以上という盛り上がりを見せた。

納涼大会は組合員の親睦をはかろうと行なわれるもので、薄灯りの下にゴザを敷いての談話という場合は、その目的を達するのに絶好の雰囲気がかもしだす。飲んだ飲んだ。実に八十七



盛大だった納涼大会(盛岡日赤)

ツトルのビール、百五十本のジュース。食べた食べた。焼鳥二本、おにぎり百個等々。騒いだ騒いだ。仕事の厳しさを離れておしゃべりの種は尽きない。子どもは花火大会。手を頭上にかざして踊りだす看護婦さんまで出たあたりで宴も最高潮である。楽しく満ち足りたに違いない皆の顔と声の中において、このような機会をつくるのも組合の大切な役割であるのだからと思つものである。



海水浴でスイカ割り(岡山日赤)



大いに親睦を深めました(八戸・盛岡日赤)

